

包丁で脅され、首絞められ…でも「へこたれず」

産経新聞ホットライン
販売・配達に関するお問い合わせ
06-6633-9357(平日9時~19時、土日祝日~17時)
http://o-sankei-hanbai.com/c/(平日のみ)
購読のお申し込み
0120-34-3733(平日9時~19時、土日祝日休み)
http://www.sankei.co.jp/reader

平成24年(2012) 日刊24913号
4|18 [水]
産経経済新聞(サンケイ)
THE SANKEI SHIMBUN
発行所 産経経済新聞大阪本社 2012
〒556-8660 大阪市淀川区淡路2-1-57
☎ 大阪 (06) 6633-1221(大代表)

産経新聞

。笑ってし面るこみて、メいく見込森貴弘

虐待する大人 助けたい

女性社長、講演で訴え



虐待を乗り越え「幸せ」について語る島田さん。3月17日、大阪府高槻市の富田ふれあい文化センター

@層 深

両親からの虐待、父親の自殺、自閉症児の子育て、認知症の義父の介護…。人生の試練に次々と遭遇し乗り越えてきた女性が、虐待のない社会を目指して講演活動を始め、その壮絶な内容に驚きと共感の輪が広がっている。大阪府中央区で映像制作会社を経営する島田妙子さん(40)写真。虐待の記憶の封印を解いたのは、1つ違いの兄の死だった。「人の役に立ちたい」と願いながら逝った兄の遺志を受け、講演で「心の救済」を呼びかける。

じょうに、毎日受けた」。小3の冬、酒に酔った父親に包丁で脅された上、風呂の湯の中に何度も何度も顔を押しつけられ、窒息死しそうになった。中2の時には、家に保管していた町内の自治会費を盗んだと母親にぬれぎぬを着せられ、父親に首を絞められた。

「わたしはこれまでの人生で2度、命を落としかけました」。大阪府高槻市の富田ふれあい文化センターで、3月17日に開かれた講演会。島田さんがこう切り出すと、開場を埋めつくした約150人の聴衆が息をのんだ。3人兄妹の末っ子で長女の島田さんは、小学2年から中学2年までの約6年間、実父と継母から靴べらで殴られたり、包丁を突きつけられたりといった虐待を「ごはんを食べるのと同じこと」もあっていきました。2番目の兄は小学校の修学旅行の出発日、ふとんとロープでぐるぐる巻きにされ、旅行を断念させられた。当時パンコ通いをしてきた継母が、返還される旅行費用ほしさにした行為だった。兄妹3人そろって車で児童相談所の前まで連れて行かれ、「あそこに行つてこい」とホイ捨てされた「こともあった」。

8面に続く

@層 深 「まっすぐ生きて」「思い伝え

1面から続く

「虐待してやるでしょ。言い訳は許しません」。中学3年のとき、担任の女性教師が両親を呼びつけて、その言っただけでした。継母と実父から約6年間、殴られたり包丁で脅されたりといった虐待を受けていた島田妙子さん(40)は当時、ガリガリにやせ、体はあざだらけ。そんな島田さんを見て、担任ら3人の教師が立ち上がった。

「虐待するでしょ。言い訳は許しません」。中学3年のとき、担任の女性教師が両親を呼びつけて、その言っただけでした。継母と実父から約6年間、殴られたり包丁で脅されたりといった虐待を受けていた島田妙子さん(40)は当時、ガリガリにやせ、体はあざだらけ。そんな島田さんを見て、担任ら3人の教師が立ち上がった。

虐待から再起の女性社長



虐待を乗り越え「幸せ」について語る島田さん。3月17日、大阪府高槻市の富田ふれあい文化センター

く父は自殺を図った。「父の自殺の理由は分からない。でも、その直前『悪かったごめん。妙子のごときは大好きやった』と電話してきた」。島田さんは19歳で、映像制作会社に転職。22歳で結婚して3人の子供(娘2人と息子)を産んだ。息子は自閉症。父と争いす生活の義母を介護することになった。介護を引き受けた島田さんだった。心の中で「自分だけがしんど

い目をして」とも思っていた。そんな緊張の糸が、ある日切れた。「よい子であることを無意識に求めていた娘のうち一人がまっすぐを抜く異常な行動をしていた。負担をかけていたのだと気が付き涙があふれた。子供のように『ウワー』と号泣してしまいました」。認知症を心の中ではなく、息子にも「きょうはパニック(症状)にならないでね」と思っていた。号泣する島田さんを見て、義母は「あんたがそんなことになるなんて」とつみやき、義父と息子は圧倒されながら、何かを感じ取っていた。「これで楽になった。この日を境に義父はおだやかに、息子のパニック症状もなくなりまし

血病。40歳だった。「ともに虐待に耐え、普通の兄妹とは比べものにならない、かけがえない存在。小児が亡くなったわたしはもう頑張れない。そう思うようになりました」。

大阪府高槻市で3月17日に開かれた講演会。すずり泣きが聞こえる会場で、島田さんは1時間半におよぶ講演を、きこり縮めくくった。「虐待を受けている人たちもしんどい気持ちを抱えて、『助けてほしい』と願っている。虐待された身だからこそ、そんな人たちの悩みを聞いてあげられる」。